

## 文化遺産総合活用推進事業 実施報告

1 都道府県・市区町村名	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、山口県、岩手県、静岡県、北九州市、大牟田市、中間市、佐賀市、長崎市、荒尾市、宇城市、鹿児島市、萩市、釜石市、伊豆の国市	2 補助事業の種類	世界文化遺産活性化
3 実施計画の名称	「明治日本の産業革命遺産」人材育成事業		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度		
5 過去の補助事業実績			
平成 2 3 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業	千円		
平成 2 4 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業	千円		
平成 2 5 年度文化遺産を活かした地域活性化事業	千円		
平成 2 6 年度文化遺産を活かした地域活性化事業	千円		
平成 2 7 年度文化遺産を活かした地域活性化事業	千円		
平成 2 8 年度文化遺産を活かした地域活性化事業	千円		
平成 2 9 年度文化遺産総合活用推進事業	16,590 千円		
平成 3 0 年度文化遺産総合活用推進事業	74 千円		
6 計画の実施状況（概要） <small>※平成30年度までに実施した計画の実施状況を記載してください。</small>			
<p>1 平成 2 9 年度</p> <p>(1) 人材育成研修教材の制作 推薦書ダイジェスト版、公式ガイドブック、エリアの展示内容をベースに、人材育成のために、研修教材（明治日本の産業革命遺産解説教材、インタープリテーション技術教材、製鉄・製鋼分野教材）を制作。既存HP上に 受講者向けの研修教材を整備。</p> <p>(2) 人材育成研修の開催 制作された人材育成研修教材をもとに、構成資産の所在する 8 エリアにおいて研修を実施し、ガイド人材の育成を図った。併せて、伝える技術・ノウハウに加え、公式ガイドアプリの解説・活用方法も研修内容に組み入れて実施した。</p> <p>2 平成 3 0 年度</p> <p>(1) 人材育成研修教材の制作検討会議開催 構成資産の産業別における位置づけなどを正しく認識し案内等を行うことができるよう、29年度の製鉄・製鋼分野に加え、造船・石炭分野の教材を作成し研修を実施する予定であったが、教材作成者の急病等のため、実施期間を 1 年延期し、31年度に当該事業を実施することとした。このため 30年度は、31年度の教材制作、研修実施に向けた検討会議を 2 回実施した。</p>			
7 定量的な目標に対する計画の進捗状況 <small>※平成30年度までの進捗状況について、実施計画で設定した指標に基づき、状況値と目標に対する達成率を記載してください。（指標・目標値を複数設定している場合は、全て記載）。</small>			別紙①②のとおり
8 事業実施による効果等 <small>※平成 3 0 年度までの計画の実施により得られた効果や実施以後の状況（人数、理解度、活用状況、人材育成などの指標に基づき、定量的・定性的な効果）を具体的に記載してください。</small>			
<p>平成 2 9 年度事業では、合計400人の展示施設・ツアーガイド等が「明治日本の産業革命遺産」全体としての価値と製鉄・製鋼分野についての研修を受講し、全体ストーリー、構成資産の産業別における位置付けなどについて、全エリアで一貫した理解を深めることができた。研修会参加者へのアンケート結果からは、参加者の88%から「明治日本の産業革命遺産」全体の価値について「良く理解できた」「概ね理解できた」との回答結果が得られており、参加者の世界遺産価値への理解が全体的に向上したと考えられる。平成 2 9 年度事業での研修へ参加したガイドを平成 3 0 年度に活用した来訪者は、全エリア合計で73万人に達している</p>			

## 9 得られた効果の検証・分析

平成29年度事業に各資産で活動するガイド等を対象として開催した研修会により「明治日本の産業革命遺産」全体のストーリーについての理解が進んだことが確認できている。「明治日本の産業革命遺産」については、世界遺産登録と同時にユネスコから「各構成資産の関係者が理解増進について一貫したアプローチを講じられるよう、人材育成を実施すること」及び「推薦資産のプレゼンテーションについてのインタープリテーション戦略を策定し、各構成資産が産業化の1または2以上の段階を反映しているかを特に強調すること」を求められている。このことを踏まえ、今後はこれまで作成した製鉄・製鋼分野、全体の価値についてのテキストに加え、造船、石炭分野に関する共通テキストを作成し、その教材を活用した研修を全エリアで一体的に実施することで、産業別の価値の理解や資産同士の横のつながりについて共通理解を図ることとしたい。

## 10 総括評価結果

※実施計画期間終了の翌年度における総括評価の結果を定量的・定性的な側面から具体的に記載してください。

7 定量的な目標に対する計画の進捗状況 別紙

具体的な指標 1 :	各エリア構成資産への来場者数				関連事業:	①	
目標値 1 :	平成 28 年度		373 (万人)		⇒	平成 31 年度 411 (万人)	
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 年度	平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度		
(万人)	(万人)	374 (万人)	374 (万人)	(万人)	(万人)		
		3%	3%				

## 7 定量的な目標に対する計画の進捗状況 別紙（関連事業）

事業①：	「明治日本の産業革命遺産」人材育成事業		実施団体：	「明治日本の産業革命遺産」人材育成事業実行委員会			
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度			
事業概要：	「明治日本の産業革命遺産」全体の価値、23構成資産のそれぞれの位置づけ、製鉄、造船、石炭の各産業別における位置づけを正しく認識し、案内等を行うことができるよう教材を作成し、それを活用した人材育成研修会を構成資産の所在する8エリアで開催する。						
具体的な指標：	「明治日本の産業革命遺産」人材育成事業による教材で研修をうけたガイド（有料・無料含む）を活用した利用者数						
目標値：	平成 28 年度		0（人）		⇒	平成 31 年度	23,040（人）
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成	年度	平成	年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
	(人)		(人)	(人)	735,000 (人)	(人)	(人)
					3190%		